

テーマ(共感と感動を生み出す意見交流の場づくり)

指導者 T1 辻 裕介

T2 福田 裕子

1 学年 第2学年

2 主題名 「友達への親切」 (2-(2)思いやり, 親切)

3 ねらい 身近な人々に温かい心で接し, だれにでも進んで親切にしようとする心情を育てる。

4 資料名 「学びゅうえんのさつまいも」(出典:「小学校 道徳 2 みんなたのしく」 東京書籍)

5 本時の主題について

本主題は, 内容項目2「主として他の人とのかかわりに関すること」の(2)「身近にいる人に温かい心で接し, 親切にすること。」にあたる。低学年においては, 家族だけでなく家の周りの人や学校の人々, 友達などとの関わりが次第に増えてくる。発達的特質から自分中心の考え方をすることが多いが, 様々な人々との関わりの中から, 相手の考えや気持ちに気付くことができるようになる。

幼い人や高齢者, 友達など, 身近にいる人に広く目を向けて, 温かい心で接し, 親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることが必要である。

6 本時の主題に係る児童生徒の実態について

本学級の児童は, 進んで手伝いをしたり, 誰かのために行動する姿がよく見られる。また, 自分の意見をじっくりと考え, 自分の言葉で書き表すことができる児童が多い。しかし, 気分や状況によっては相手の気持ちに気付かず, 自分中心に考えてしまうことが少なくない。友達の意見を深く考えながら聞いたり, 友達の意見に対して自分の意見を発言しながら交流したりすることも, 苦手な児童が多い。

7 資料について

風邪をひいて, 学級園の芋掘りに参加できなかった主人公みち子の心情の経過を中心に構成されており, さつまいもを届けてくれ, お見舞いの言葉と, 励ましの手紙を残してくれるよし子の温かい心遣いに感動するみち子に焦点が置かれている。

よし子の想いやみち子の感動を想像することで, 自分の行為や言葉が人の助けになり, 人と人との信頼関係を築くものであることを考えられるようにしたい。

8 指導過程の工夫

① テーマに係っての工夫

主発問である「手紙を書いた時のよし子の気持ち」を考えさせる部分では, よし子の気持ちをワークシートに書かせ, それを児童の中で交互に回し読みさせる。さらに友達の意見を読む中で, 「良いと思った部分」と「共感した部分」を見つけさせ, 色鉛筆で線を引かせる。様々な意見に触れることで, 感動や共感を生むことができると考える。また, 友達に線を引いてもらった意見を自ら読み返し発表することで, 自分の考えをさらに深めさせたい。

② 発問の工夫

展開部分では、芋掘りができないみち子の残念な気持ちにしっかりと共感させる。次に、よし子がどのような気持ちで親切な行為を行ったのか考えさせた上でよし子の親切に対する気持ちを考えさせる。それによって、何気ない行動でも友達を思う気持ちが親切を生むということに気付かせたい。

③ 導入・展開・終末の工夫

導入では、親切にした体験を発表させ、資料を提示する。その際、親切にした側の立場になって、その時の気持ちを取り上げるようにする。それによって登場人物の行動や心の動きについてじっくりと話しあっていけるようにしたい。

展開部分では、収穫したさつまいもと心のこもった手紙を届けに来たよし子のやさしい気持ちや、みち子がよし子のやさしさに感動するところをしっかりと押さえたい。また、親切にすることは、代償を求めたり、恩返しを期待することではなく、心からそうしたいという、内から自然に出てくるものであり、それこそが素晴らしいということに気付けるようにしたい。さらに教師の体験談の中で、ねらいとする価値への姿勢を話すことで、心情面を深めるようにする。

終末部分では、親切にされた体験を発表し、親切にされたみち子の喜びに共感できるようにする。そして、学習を振り返り自分の気持ちを記入する活動を通して、だれに対しても親切にしようとする意欲を高めたい。

9 準備物

ワークシート、挿絵のコピー、赤鉛筆、青鉛筆

10 授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される 児童生徒の心の動き (◎中心発問)	指導形態		指導上の留意点 (☆評価の観点)
			T1	T2	
導入	①身近な人に親切にしたことや、それを見たり聞いたりしたときのことを発表する。	○今までを振り返って、親切にしてあげたことはありますか。 ・友だちに教科書を貸してあげた。 ・弟と一緒に遊んであげた。 ・お母さんの皿洗いを手伝ってあげた。	発問	板書	・できるだけ、身近な生活経験の中から想起させる。 ・親切にした側の立場になって話すようにする。

展 開	④ 親せつって何だろう。				
	② 「がっきゅうえんのさつまいも」の前半(P. 65 L. 9 まで) を読んで話し合う。	○休んでいる時, みち子はどんなことを考えていたでしょうか。 ・今頃どうしてるかな。 ・わたしも芋掘りがしたいなあ。	範読 発問	掲示 板書	・みち子の残念な気持ちを、挿絵を用いながら十分理解できるようにする。
	③ 「がっきゅうえんのさつまいも」の後半(P. 65 L. 10 ～ 最後まで) を読んで話し合う。	◎よし子は、どんな思いで手紙を書いたのでしょうか。 ・楽しみだった芋掘りができなくてかわいそう。 ・勉強のことは心配しないで。 ・友だちだから、持って行ってあげよう。 ・早く元気になってね。 【グループでワークシートを読み合い、自分になかった意見(赤)・共感する意見(青)に線を引く】	範読 発問 机間指導	机間指導 板書	・親しい友達だからしたという考えができれば、それだけでないということに触れて指導をしていく。 ☆友達を思いやるよし子のやさしい気持ちを共感的に捉えることができたか。
		○よし子がさつまいもを届けてくれた時, みち子はどう思ったでしょうか。 ・とてもうれしい。 ・よしさんはやさしいな。 ・わたしもいもが食べられるな。	発問 机間指導	机間指導 板書	・親切な心や行動に対するみち子の感動を大切にすする。
	○みち子が「教室の友達に話したい」と思ったのは、何がうれしかったからでしょうか。 ・よしさんの自分を思う気持ち。 ・心配してくれたこと。 ・よしさんのやさしさ。 ・自分を考えてくれたこと。	発問 机間指導	机間指導 板書	・よし子のやさしい行為が、みち子の心に感動を起こし、「どうしても、そうしたい」という必然的な心の動きになったことを明確にする。	

展 開	④教師の説話を聞く。	○身近な親切について話し、価値の理解と心情を深めていく。	机間指導	説話	・身近な親切について話しながら、心情を深めて終末としていきたい。
終 末	③自分のこととして、親切について考える。	○今までの振り返って、親切にされたことはありますか。どんな気持ちになりましたか。 ・友だちに消しゴムを拾ってもらった。うれしかった。 ・順番を譲ってもらった。 ○これから、どんな気持ちで周りの人とすごしていきたいですか。	発問 机間指導	机間指導 板書	・親切にされた側の立場になって考える。 ☆親切について振り返り、思いやりや親切について考えを深めることができたか。

11 板書例

「さつまいもと手紙を届けてもらう」

親せつをした

よし子

「さつまいもと手紙を届けてもらう」

親せつにされた

みち子

友だちだから。
心はいしないでね。
だいじょうぶかな。
早く元気になっ
てね

よし子さんは
やさしいな。
ありがとう。
うれしかった。

自分のことを考えてくれたこと。
手紙まで持って来てくれたこと。
心配してくれたこと

「教科書をかしてもらった」
「おとしものをとどけた」

○あつてのことを
考えて。

○たすけあい
の気持ちで。
○してきゆうえんとうれしい

○たすけあいの気持ちで。
○してきゆうえんとうれしい

がっきゆうえんのさつまいも
め親せつって何だろう。
した「消しゴムをひろった」

今ごろどうしてるかなあ。
いもほりしたかったなあ。

12 ワークシート

「さつまいも」

○これから、どのような気持ちでまわりの人とすごしていきたいですか。

「さつまいも」

○よし子は、どんな気持ちで手紙を書いたのでしょうか。

学きゆうえんの さつまいも 名前




